

△言はずと知れた講習が終つて先生達や會員諸君に別れるとき
△何故自分ばかりコー下手だらうと思つたとき

驚き入つたのは

△繪を直して下さる先生達が、チューブに半分程もあらうといふ澤山の繪具を筆の先へつけて大膽に描かれることで、中にはヒヤ／＼してゐたのもあつた

△小島仙松君の朝鮮の『驚いた話』はネツカラ驚くに足らんことばかりなので却て驚き入つた

残念だつたのは

△オトツサンの有名な講談を一度も聴かなかつたこと、去年來約束といふのに怪しからぬオトツサンではある

△ゴセン上等の納札を目つけて、剝がさうと思つたが何分高い處で手が届かず、三脚の上へ乗つてもダメであつたと

口惜かつたのは

△見物人が僕の繪を見て『アツサのの方が上手だね』と言ひ捨てゝ起ち去つた時、何だい下手だから講習に出て來たのだから田舎者に何がわかるものかい！

△ツイ寢坊をして、先生が御飯前に寫生にゆかれたのを知らずに居た朝

苦しかつたのは

△江の島からの歸りに電車の満員立往生

△由井ヶ濱からの歸りのスキハラ

△たいさへ暑いのに見物人に二重にも三重にも取巻かれた時

厭だつたのは

△朝早く起きるの

△寫生中學生風の人間に後ろに立たれたとき

奇抜だつたのは

△片桐君の聲

△宮崎君の笠

△佐久間の靴下

△中山君の寫生箱

△湊君の首手拭、その他（完）

茶話會

餘興子

八月九日鎌倉丸屋樓上に於ける講習會々員の茶話會、其時の有様を書いて、講習に御出席のない皆様に御知らせ致せとの命令が、委員長から下つた次第でも何でもなければ、物好きにも覚えてゐる處だけ申上ます、人名の如きは顔馴染淺き某甲のことにて、少しは間違もあるかも知れません。

午後八時といふに、表二階四室うち通しの廣間、浪のやうに青いと申たいが、其實大ぶエローオークル的、否場處によつてはセビヤ的の疊の上に、ズラリと並んだのは、先生御兩人を始めとして、紅一點の竹内女史マサオ少年、及び丸屋並びに建長寺其他から集まつた會員五十名、各々繪の上手ソーな顔つきな仕り、今夜の餘興の苦しうな顔色な仕つて扣えたり。オトツサ

ン、即ち富田委員長の開會の辭兼口上にて、幕を落す——オツトそんなものは無い——と、先第一に佐久間大將が福引と稱して紙片を配る、番號順に讀んで見ると、それは今夜餘興のプログラムだ、中には警句が澤山ある『ハイカラ髯は佐藤さん、次では角田、小島さん』眼鏡の光るは菊地さん、加藤さんには天城さん、好男子では桑田さん』などで、餘興の報告は、奥村長身君の『ハアモニカ』、平野君の『うかれ節』角田君の『薩摩琵琶』、水谷君の『戦争談』、桑田君の『手品』、大下先生他に一人の『田舎女學生』、小林君の『踊り』、其他何でも澤山あつた。さて段々に進行する、委員長の口上は極めて輕妙、よく人を笑はせた、角田君の『俊寛』はよい出来で、繪があつた位ひやく畫けたらとは誰かの蔭口、少し座が沈んだ時、委員長の命で、大下先生の『田舎女學生』が出た、先生は實際の寫生だといふて、何でも『昨夕四五人連れて學校の近處を歩いてゐた時、向ふから疲れた田舎女學生の一群が來た、バタリ行遇ふと』と、先生がこゝ迄話して、急に隣りの竹内女史と差向ひになつた、スルト女史はオーレオリンのやうな聲を出して『アノ一寸伺ひますが』と來た、こゝでイワヤのアナグラといふ處へゆく道をきくのだ先生が『頼朝の墓は直きそこだ』と答へたら。大勢の聲で『アレ嬉しいは、近くつて！』と叫んだので大團圓、何事か始まるのかと實は一同少々面くらひの體、さてまた段々進んで來て、小林君の踊りとなる『大夫身仕度の間』とあつて、桑田君の手品、『花をさかせて御覽に入れると』いふて、紙を破つて御自分のアノ

大きな鼻を出したのには一同失笑、そのうち口上に連れて出て來たものを見ると、頭には大きな衣服の帽を冠り、便々たる腹は一つの顔と早變りして、目鼻立にこやかに、腰を垂れ足を曲げて、覺束なき手にサイハラヒをうちふり、何やら歌ふてヨロ／＼踊り出す工合、おかしい共おかしい共、抱腹絶倒、暫時は拍子の音で耳がいたくなつた、片桐君は『都々逸、祭文、浪花節、淨瑠璃、葉うたに影芝居、詩吟、チヨボクレ何でも來い』なんて、エライ元氣だつたが、今夜は甘いものゝ食ひ過ぎ、シルコカタルが起つたので、一切此次迄御預けとの事で、食つたり笑つたり二時間夢の間に過ぎたので、委員長の失策談を最後として目出度會を閉じた。某甲の見聞報告はまづザツト如斯に御座候也。

飯山圖畫展覽會記事

下水内郡教育品展覽會開催をを機として九月廿七日より三日間圖畫展覽會を飯山小學校尋常部に開催せり出品畫の主なるものは丸山、大下、大橋諸氏の水彩畫四十六點川端、荒木、寺崎、下村諸氏の日本畫及び美術學校卒業生製作十八點日本水彩畫會本部作品二十七點同長野支部並に飯山素絢會々員の作品百二十一點美術學校圖畫師範科生徒油繪水彩畫三十三點縣下諸學校生徒の成績四百一十一點外國圖畫成績三百餘點等にして三日間に於ける入場者は總計六千四百十余人以て其盛況を知るを得べし。

(飯山支部委員)